

唐津焼④唐津焼の陶芸家

～唐津焼を代表する陶芸家は？～

唐津焼は400年以上も続いています。江戸時代は作品に作者の名前を入れることは普通はしませんでした。明治以降になり、徐々に作者名を入れるようになります。陶芸家として個人的な作品発表が盛んとなるのは大正時代以降のことです。

中里無庵さん（12代中里太郎右衛門）は昭和初期から桃山時代の古唐津の復元に着手しました。またこの技法を使って格調高い作品を生み出しました。これらの功績が認められ、昭和51年には国の重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。作品には叩き壺をはじめ、茶碗や朝鮮唐津の水指など優れた茶陶があります。

中里逢庵さん（13代中里太郎右衛門）は、父無庵さんとともに古唐津の研究を行い、古典の技法を制作に取り入れながら次々と新しい唐津焼を創作しました。特に叩き技法のルーツを調べるため世界中の産地を訪れ、現地で作品も作っています。こうした研究は多くの著作にまとめられ、平成16年には博士号を取得しています。平成19年には、長年の創作活動が高く評価され、日本芸術院会員に就任されました。

現在、唐津には中里家以外にも多くの優れた陶芸家や窯元が活躍しており、唐津焼の評価を高めています。

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



中里無庵
(1895～1985)

(『唐津探訪』より)



中里逢庵
(1923～2009)

(唐津新聞より提供)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆「特集”唐津”の魅力」
『炎芸術 No103』
2010年 安部出版

◎エピソード・伝承・うんちく など

- 無庵さんは絵付けを逢庵さんに任せため、無庵作品には絵唐津などの作品がほとんどありません。
- 逢庵さんは玄界灘の魚が大好きで、作品によく描かれています。魚の向きは右向きなのは、左向きにすると事業が左前（落ち目）になるという縁起を担いだからです。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html